

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見 今後の改善策
1	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート1＞96% 前期よりやや下がったが、前期同様に主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図った。必要な情報を共有しながら、一人一人が組織的に学校運営に携わることができた。今後は取り組みや反省点を分析しながら、改善や引き継ぎを行っていく必要がある。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・教職員が学校づくりへの積極的な取り組みが伝わる。一方、教員も休みは必要(水曜日の定時退校も含む)であり、具体的な勤務時間短縮に向けた行動や風土づくり、業務のスリム化を図る必要がある。
	②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと標準化の工夫を図る。	教頭	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	＜教職員アンケート2＞96% ＜教職員アンケート3＞52% 前期よりやや下がっているが、学校運営参画意識はとて高い。勤務時間短縮への意識は高まりつつあるが、毎日の働き方への声掛けと共に、定時退校日に会議を入れない日を設定するなどの取り組みと共に、業務の効率化という視点でも行事の精選や取り組みの重複をなくしスリム化を図るなどカリキュラム・マネジメントをさらに進めていきたい。	D	・不登校に限らず、生きづらさを感じたり、発達障害傾向の子どものも増えている。相談できる先生を選べるシステムは評価できるため、時間の確保が難しい中ではあるが、情報交換を大切にしながら、今後も丁寧な対応をお願いしたい。
	③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	＜教職員アンケート4＞52% いじめ事案や不登校傾向になる生徒に対して個々への対応はとて丁寧なされている。しかし、それらについて他学年への情報の共有が遅れることがあった。他学年の教員も同じ対応ができるようにしていく。特に、長期化している生徒の対応について定期的に確認していくことが必要である。	D	＜今後の改善策＞ いずれの項目も前期と比較して、ほぼ同等か多少ptが下がっている。組織的対応の基本は大切にしながら、大幅な改善に向けて、特に多忙化解消については具体的な取り組みが必要。
2	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、GIGAスクール構想を意識した授業改善を図る。	研究	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5,6,14,15＞ ＜生徒アンケート16,19,34,35＞ ＜保護者アンケート11,12＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に進めているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができていくか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート5＞100%＜6＞96%＜14＞97%＜15＞96% ＜生徒アンケート16＞94%＜19＞94%＜34＞98%＜35＞95% ＜保護者アンケート11＞87%＜12＞81% 前期より、ほとんどの項目で数値が上昇した。教職員がICTを効果的に活用した授業改善に取り組んだ結果であると考えられる。引き続き、授業改善を行い、今の時代に必要とされる資質・能力が身に付くような授業を行っていく。ただし、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の2つの肯定的な評価の中でも、「あてはまる」と答える方が多くなるように改善していく。	B	＜学校関係者評価者による意見＞ ・ICT環境が整い、授業を参観していてもICTを効果的に活用した授業実践されている。生徒たちにとっても「望むスタイル」ではないだろうか。 ・生徒の皆さんが学びに向かう姿勢も素晴らしい、あらゆる教科でのptが向上していることが良い。 ・生徒目線で見るとICTを効果的に活用した授業は必要ではあるが、先生方の負担になっていないか心配でもある。
	②「授業の辰スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	研究	＜満足度指標＞ 「授業の辰スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さず褒め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート7＞ ＜生徒アンケート14,15,18＞	＜教職員アンケート7＞96% ＜生徒アンケート14＞95%＜15＞90%＜18＞94% このいい結果に甘んじることなく、「授業の辰スタイル」を意識して授業を行い、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を実践していく。生徒アンケートで、各学年での数値にばらつきが見られるので、各学年で考えて、その学年に合う対策をして、向上を目指していく。	A	＜今後の改善策＞ ・ICT県モデル校として、この2年間、GIGAスクール構想を展開してきた。新たな授業づくりを展開するポイントとして「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点をもち、「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことを教職員内で確認することができたことは大きい。 ・次年度もこの2年と変わらず、ICTを活用した授業を推進し、「今求められている力」を育てていきたい。
	③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面で学力の向上に表れているか。	＜教職員アンケート8＞93% 全国及び県学力調査による5月版以降、結果発表後の9月版、市評価問題後の1月版と3回の学力向上プランを教職員全体で共有し、定期テストと普段の授業において取り組みを進めてきた。ICTを効果的に活用した授業改善とも連動させ、「今求められている力」とは何かを意識することで、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成することができた。	A	
3	①集団の中での自分の役割を果たすことを通じて自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート29＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	＜教職員アンケート10＞96% ＜生徒アンケート29＞92% 親和的な学級、学級づくりにのために、面談やアンケートを活用しながら個人に寄り添い、丁寧に指導に当たっていた。クラスの係りや行事などでも生徒がそれぞれに役割を持ち、主体的に動くことができるように活動の場の設定を工夫していた。今後も、一人一人が役割を意識して活動できる場を作っていく。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・「大変成果がある、効果がある」と思えなくてもボランティア活動とは日常の自分自身の行動そのものである。そのことを生徒に理解してもらうだけでも十分に意義はある。 ・コロナ禍でボランティア活動の火が消えないかと心配していたが、その心が繋がった事は大きい。生徒会を中心に進めてきたこと自体に成果はあった。
	②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート26＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	＜生徒アンケート26＞60% ボランティア活動自体が少なく、参加する機会があまりなかったが、「あれば参加したい」と答える生徒を合わせても78%である。実際に参加しないことのような意識を持つことが難しい。それでも、日常生活の中でもできることがあるということを知らせていく必要がある。普段の生活の中でできることから、自己有用感を高めていくことができる良い。	D	＜今後の改善策＞ ・コロナ禍後どのような取り組みを展開するかを生徒会を中心に検討していく。豊かな心の育成のために必要な活動を展開したい。
4	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	＜保護者アンケート5＞83% 教育相談の体制は充実している。個々への対応もとて丁寧である。しかし、保護者アンケートの「わからない」と答えた保護者が10%であった。学校での取り組みを理解してもらうために、懇談や面談の案内等をはじめ、対応があった場合にも保護者への連絡を丁寧におこないたい。	B	＜学校関係者評価者による意見＞ ・コロナ禍により、保護者が学校を訪問したり、保護者同士の交流が十分に取れなかったりしたことが、学校の取り組みへの理解やアンケート結果に表れていると思われる。 ・難しい状況ではあるが、学校が家庭に何を求めているか、どんなことを期待しているかを理解してもらい取り組みも必要と言える。 ・健やかな心身の育成のためには、家庭との連携を図り、実態把握を丁寧に組織的に行うことが大切である。
	②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート6,8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ ＜教職員アンケート12＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	＜保護者アンケート6＞77%＜8＞82%＜9＞78% ＜生徒アンケート22＞71% ＜教職員アンケート12＞100% 今年度は、家庭でのルールづくりやPTAとのタイアップ、生徒会委員会からのアンケート入力など様々な行事で部活動に参加できなかったと考える。「生徒主体の安全で満足する部活動」に転換する時期だと考える。しかし、全体の割合は減ったが「そう思う」と答えた職員が9%増加したこと、前期よりも部活動を円滑に運営していると自覚している職員も増えたことは頼もしい。	C	＜今後の改善策＞ ・少しずつコロナ後の明るい展望が見え始めている。コロナ禍により、難しくなった取り組みをコロナ後どのように新たに展開していくかは十分に検討が必要である。過去の取り組みを踏襲するのではなく、新たに選定していくことで、無理なく進めていくことも新たな視点の一つと捉え、様々な活動を推進していく。
	③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	保健文化	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	＜教職員アンケート11＞ 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。	＜教職員アンケート11＞89% 「どちらかと言えばそう思わない」7%増加したこと全体の評価が下がった。その理由は様々な行事で部活動に参加できなかったと考える。「生徒主体の安全で満足する部活動」に転換する時期だと考える。しかし、全体の割合は減ったが「そう思う」と答えた職員が9%増加したこと、前期よりも部活動を円滑に運営していると自覚している職員も増えたことは頼もしい。	B	
5	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりや考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	＜教職員アンケート13＞97% ＜生徒アンケート13＞96% 総合的な学習の時間「課題研究」では、1年生が「地域を知ろう」、2年生が「地域で考えよう」、3年生が「地域に発信しよう」というテーマで一人一課題を持って取り組むことができた。プレゼン資料作成だけでなく、自分からアウトプットする力を育む本校のベースとなる課題研究について、更なる改善を加え、地域と連携した取り組みを進めていく。また、職業講話やがん教育、立志式といった活動においても、地域リソースを最大限に生かした教育活動を行い、CSとの連携も含めた地域とのつながりを更に深めていく。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・家庭や地域との連携に関する各々の評価が高いことは何より。保護者の皆さんの意識がそれだけ高いことは今後に期待する所も大きい。保護者への情報発信は重要であることを意識し、連携を図ってきたい。 ・総合的な学習の時間「課題研究」を参観したり、立志式での生徒の様子を見たりして、しっかり力をつけて成長していることを強く感じた。
	②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート7,10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	＜保護者アンケート7＞86% ＜保護者アンケート10＞80% 新型コロナウイルス拡大防止策を講じながらできる限り多くの活動を行った。また、ICTを活用した動画配信等、学校の様子を伝えたが、上記アンケート2項目の「そう思う」の割合が低い傾向にあるので、今後はPTAなどと連携し、できる限りの取り組みを実施し、お知らせや取り組み内容など情報の発信を進めていきたい。	B	＜今後の改善策＞ ・学校運営協議会(CS)を中心とした地域との繋がりは本校における大きな強みの一つである。コロナ後における様々な取り組みにおいて、大いに連携を図り、より良い環境で学校づくりを進めていく。

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、《肯定的な意見がA：90%、B：80%、C：70%、D：70%未満》として評価する。
 ◆評価は＜1：そう思う、2：どちらかと言えばそう思う、3：どちらかと言えばそう思わない、4：そう思わない＞の4つで選択する。
 ◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。